

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第 7 回 近江八幡市オープンガバナンス推進協議会		
開催日時	令和 6 年 3 月 2 6 日（火） 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0		
開催場所	近江八幡市役所 4 階 第 3 ・ 4 委員会室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	奥村裕一（◎）、佐藤典司、杉浦裕樹、重野弘樹、東山孝三郎、 松岡静司（○）、西山悟、谷口晟士、山田恵美、高尾一成 （欠 席） 堤昭憲、西山亮平、岡敦哉、田口真太郎、的場保典 （関係課・事務局） まちづくり協働課 武田善雄、北川直哉 総合政策部企画課 土井忠史、橘直樹、辻仁美 ※敬称略、順不同		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名、担当者名 : 総合政策部企画課 電話番号 : 0748-36-5527 メールアドレス : 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約した理由	議事内容について、簡潔に分かりやすくするため
内容	1. 開会 2. 議題 （1）令和 5 年度の事業報告について （2）令和 6 年度の事業内容について （3）その他 3. 閉会		

担当課⇒総務課

会議記録（要約）

	1. 開 会
事 務 局	・ただいまより、第7回近江八幡市オープンガバナンス推進協議会を開催いたします。 ・本日は、堤委員、田口委員、的場委員より欠席のご連絡をいただいております。
会長	・後程、事務局から各事業の説明がありますが、まずは開会の挨拶ということで、この3月17日に、東京大学で、チャレンジ!!オープンガバナンス2023の公開イベントを行いましたので、紹介させていただきます。36自治体の皆様からエントリーがあり、40程の団体から応募がありました。3月17日に公開審査を行い、その様子を自身のFacebookにも掲載しましたので、ぜひご覧いただければと思います。大変盛会でした。 ・今年の優勝は兵庫県豊岡市のチームで、テーマは、山間部から出沒する熊に対する対策についてで、集落内で対策をしていない熊の好物の柿の木のデータを取って管理をし、それによって「クマに魅力のないまちづくり」にしようという提案がされていました。また、沖縄県那覇市では、「なは市民協働大学」というものがあり、これは市役所が音頭を取って立ち上げたものですが、ここに参加する市民の方々は一生涯懸命に「那覇市で何をしようか」と考え、チームを作り進めています。非常に素晴らしい取組でした。 ・挨拶が長くなりましたが、それでは、議事に移りたいと思います。
	2. 議 題
	（1）令和5年度の事業報告について
事 務 局	・「(資料) 令和5年度 近江八幡市オープンガバナンス推進事業」に基づき説明
委員 A	・チャレンジ!!オープンガバナンス2023について、近江八幡市では、西の湖をテーマとしたプロジェクトに関して学生の参加を募集されましたが、残念ながら応募がなかったとのことでした。このことは結果としては残念ですが、私は大学で教えていまして、年を追うごとに、社会や地域の課題へのチャレンジ意識や問題意識を持つ学生が少ないというか、ほとんどいなくなっている感じがします。 ・大学生に限るわけですが、そういう視点から見ると、こういう結果は仕方がないのかなとも思うわけです。一方で、最初、奥村先生の方から、チャレンジ!!オープンガバナンスを実施したところ盛会であったとの話がありましたので、その違いというか、そこでの成果と私が思っている感じに少々違いがあるというか、そういう気がするのですが、そのあたりについて少し質問がしたいです。
会長	・私の受けた印象を申しますと、相当な地域差があります。 ・実際、この近くでは兵庫県豊岡市、また加古川市などからも応募があり、兵庫県立大学の学生たちが参加し、これには市役所の働きかけがあった

	ことも要因かと思います。非常に学生たちが活発でした。そのきっかけを作っている先生や市役所の方々の存在があり、背中を押すと言いますか、そういうことがあると動き出すのだと思います。 ・熱心な先生がいて、刺激をすると学生が走り出すような感じです。若者の中で何かきっかけがあるのかもしれませんが、待っているだけでは来ない気がします。正直、「どうやってきっかけを作ったら良いのか」という気がします。よろしくお願いします。
委員 A	・そういう意味で言いますと、西の湖の事例は、何らかのきっかけづくりのところが必要なのかなと思います。
会長	・西の湖につきましては、私も多少お聞きしていますが、関係する団体が既に結構あって、つまり正直に言うと、改めて何かすることが難しいのかもしれませんが、ただ、そういった既存の関係団体だけではなく、むしろ全く関係のない方々、あるいは学生たちが出てきて、新鮮な目を見ていただく方が良いのではと思います。今回に限らず、末永く付き合ってくれればと思います。
委員 B	・今の話で、多分、大学生は難しいと思いました。学生には色々することがあって、そして、就職活動がこの頃早く活発になっていっています。学生と言えば大学生だけでなく、小学生もいますし、西の湖のヨシで灯籠を作ったりもしています。西の湖に関しては、逆に、もう少し対象を下に下げてみてはどうでしょうか。 ・西の湖に限らず、子どもたちを意識することで、高校や中学校に進んだときに、そういったことがあったなと思い出すこともあるでしょうし、未来に進む子どもたちに向けてできればと思います。
会長	・おっしゃる通り、他の地域でもそうですが、結局、未来を作るのは子どもたちです。子どもたちの見方、子どもたちの意見をもっと積極的に聞いていこうということで、子ども未来会議などをしようとしている社会的な風潮があります。 ・我々のチャレンジ!!オープンガバナンスでは、一応、高校生以上を対象としていますが、小学生だけではなかなか上手くはいきませんが、例えば、高校生が小学生をまとめて引っ張っていくというようなことがあっても良いかもしれません。若い、未来を支える方々の声はなかなか拾うことができませんが、オープンガバナンスで取り上げることができれば、非常に明るい話になるのではないのでしょうか。 ・余談で申し上げますと、とある地域の図書館について移転問題があった時に、建設する先には反対の声は出ませんでした。もともとあった場所からなくなる方では反対の声が出ました。結局どのようにして収束していったかと言いますと、説明会に参加していた学校の先生方から子どもたちの意見を聞いてみようという提案があり、小学生や中学生の声を聞いていただきました。すると、「移転に賛成。その代わり、もっと未来的な図書館が良い。」など、新しい図書館を作ってほしいという声があり、結局、大人たちが子どもたちの意見を中心にまとめていくということもありませんでした。
委員 C	・私の質問は、市に対してですが、近江八幡市オープンガバナンスポータ

	ルサイトについて、報告の中で、情報共有ツールとして一定の効果はありながらも、担当課のみでは、なかなか十分に発信ができていない点で課題が残るということでした。私自身は、前回、前々回と、まさにそういう部分だと感じていました。 ・民間の方々とのフラットな仕組みの中で、行政はむしろコーディネートして各場を提供する仕組みが作れると良いのではないかと考えています。資料に記載されている「課題が残る結果」について、課題意識というところを少しお聞かせください。
事務局	・市として、行政だけではなく、何とかこのポータルサイトを広く活用していくことができないかと考えていました。そうした思いから、今年度は、西の湖エコロジーハイキングの開催報告をサイト上で行いましたが、これについては、行政自らが行うのではなく、ハイキングの委託先である民間事業者が直接サイトを編集・投稿する方法としました。行政のみではなく、外部からの加勢があったという点については、課題がある中でも前向きな展望として捉えることができました。
委員 A	・併せて、LINE というのも、1つの場を作ることになると思いますし、そこに登録をしていれば参加者の皆様とやり取りができますが、この場合についても、「では、皆様どうぞ」では活性化はしませんので、そういったオンラインの場については、参加の仕組みや組織の仕組みの検討があっても良いのではと思いました。
委員 D	・少し話が戻ってしまうのですが、先程の話にもありましたように、まちづくりプロジェクトのポイントとして、やはりキーマンと言いますか、仕掛け人みたいな方が多かったという話だったと思います。 ・近江八幡市には、高校はありますが大学がなく、大学の先生がなかなか入りづらい地域とまでは言いませんが、なかなか関わりしろがない地域と言えます。私も地域おこし協力隊をしていた関係で、滋賀県立大学の先生や他大学の先生から近江八幡市を案内してくれないかといった話を何度か受けました。 ・学生も含め、案内したことが何回かありまして、せっかくオープンガバナンスのオープンデータというものがあるので、大学の先生が見て、古い町並みを案内してくれる地域の方としてこんな人がいて、資料館などもここを経由して連絡をすれば学生割引ができるなど、大学の先生に向けたみたいなメッセージ性がオープンデータの中に一つでもあると、関わりしろが持ちやすいのかなと思いました。オープンデータの中に、キーマン向けのメッセージみたいなものがあると良いなと思いました。
事務局	・オープンデータについて、何か良いアイデアがあればいただければと思います。
会長	・熱心な先生を見つけることが大切であり、繋いでいただくことが大切だと思います。
事務局	・補足となりますが、西の湖で言いますと、滋賀県立大学や京都大学がフィールドワーク等で関わっており、沖島では滋賀県立大学が関わっているなど、各分野に対していくつかの大学と連携しています。そのつながりなども活かしていきたいと考えています。

会長	・大学の先生方や学生に地域をよく見てもらう、見てもらって色々アイデアを考えてもらう。そういう実験にオープンガバナンスを使っていただと良いと思います。上手く進むと、先生方も喜びますし、学生も非常に喜びます。最初に火がつくと、どんどんと広がっていくと思います。 ・オープンガバナンスが、西の湖のプロジェクトを進めていくきっかけになっていくと思います。
委員 E	・プラットフォームの構築・推進について、私もこの LINE オープンチャットには参加させてもらっていて、なかなかコメントなどはできず様子を見させてもらっていますが、こんなことをしていこうなど、そういった意見が活発に出てくると良いなとは思っておりまして、この LINE オープンチャットが活用されるような周知や啓発についてはどのようにされていたのか、教えていただければと思います。
事務局	・当初は、市のホームページや広報紙で案内しましたが、期限がなくテーマがフリーの場合、活発な意見交換については、なかなか難しい部分がありました。このことについても、令和 6 年度の進め方の中でご提案したいと思います。
(2) 令和 6 年度の事業内容について	
事務局	・「(資料) 令和 6 年度 近江八幡市オープンガバナンス推進事業」に基づき説明
会長	・協議会としては、これまでの議題について承認するかどうか、最後に決めなければなりません。どこからでも結構ですので、ご意見やご質問をいただければと思います。
委員 D	・最後の話については、非常に面白いなと思います。そのことで、小学生の声を聞くという点について質問ですが、今、近江八幡市内の小中学生には、全員に対してタブレットは支給されているのでしょうか。
まちづくり協働課	・支給されています。
委員 D	・私は、まだぎりぎり 20 代ですが、もう今の小学生とは時代が違うなと思っています。今は、小学校 2 年生や幼稚園 1 年生でもマイクラフトをして遊んでいると聞きまして、かなり普及率が高いのかなという印象です。 ・小学生に対して、皆で集まって何かしようというのはなかなか難しいと思いますし、私も色々なワークショップに参加する中で、結構難しいと思っています。最近、ゲームの中でライブ配信などもありますので、マイクロソフトの中で意見を募ってみる、サーバーを介して参加するといったことも面白いのかなと思います。かなり話題性もあるので、ニュースにもなれば、さらに周知も広がるのではと思います。 ・そうした少し変わったことを、まちづくり会社に依頼するのではなくて、ゲーム制作会社などに依頼してはどうでしょうか。アンケートの取り方も、おそらくまちづくり会社はそれなりに卓越した集計ができると思います。

ますが、ゲーム制作会社に委託してそうしたことをしていくと面白いのではないかと思います。

委員 C

- ・先程の質問の続きで言いますと、WEB サイトを活性化していくということについて。活性化の1つの物差しが「多くの人たちが見ているということ」であり、そのためにも更新頻度を上げていくというところは良いと思います。
- ・プロに委託して、例えば「年間6人に取材してください」や「このプロジェクトについて執筆してください」といった一定の仕様があると思いますし、安定しているとは思いますが、そういった形の業務委託とするのか、あるいは「市民参加型の編集部を作ってください」という形の業務委託とするのかで、だいぶアプローチが変わってくると思います。
- ・協働や共創という考え方を取り入れるにあたって、例えば、このプラットフォームだけでも、銀行の方がいたり、青年会議所の方がいたり、社会福祉協議会の方がいたりしますが、それぞれの団体で、編集し、日常的に何かを投稿していると思います。そういった既にある編集機能が、分散する形で色々なところにあると思います。個々のNPOの管理、もしくはボランティア団体の管理においても、モチベーションが高い方がいるところは、月に何度も投稿していると思います。そういう方々が上手に参加できるような、その仕組みの検討ができると頭1つ抜ける気がします。
- ・LINE もそうですが、一旦クリアにして良いと思います。こうしたプロジェクトをやってみて良かったこと、悪かったことを考え、ある意味ずっと続けるのではなく、スパッと切った方が良いと思います。
- ・今後、若干でも税金を使うということであれば、どういう仕様で発注するのかを検討し、ぜひもっと進化型をチャレンジしてほしいと思います。また、行政と市民の協働はもちろんですが、既にある各セクターなども参加することで、更に面白くなると思います。

会長

- ・LINE オープンチャットについて、一旦休止されるとのことですが、実験としては大変良かったと思います。経験も積まれたと思いますし、一旦休止で良いと思います。
- ・やはり、リアルがあった上でのバーチャルであり、その方が議論も活発になると思います。今後、テーマ別に実施する時も、リアルがあって、それをバーチャルでも議論していく方が、両方が生きていくと思います。

委員 F

- ・話を聞いていて、先程の子どもの声を聞くというところに関しては、子育て中の母親の意見として、すごく面白いことだなと思います。実際に子育てをしている中で、「子どもはこんなことも考えているのだな」「思ってもみないことをよく考え、大人の声をすごくよく聞いているな」ということがあります。
- ・先程の説明の中で、コミュニティエリアの構想にあたっては色々な背景があると知り、「何をしたら良いのか」「どうしたら良いのか」を子どもたちに聞いてみたいなど、すごくわくわくしました。この地域に住んでいるわけではありませんが、私でしたら、多分やってみたいなと思いました。
- ・子どもたちは、すごく鋭い意見を言うのではと思います。大人は色々なことを考え、先に心配事を考えてしまいますが、それよりも先に直感で思ったことを言ってくれる子どもたちの声は、実は、すごく良いきっかけ

けになるのではないかと思います。先程のゲームという発想もすごく良いなと思いました。長い休みの時に、子どもたちにそういうきっかけを与えるようなことをしてもらえたら嬉しいです。

- ・以前に、税務署のホームページに載っていた、これを建てたらお金がいくら掛かるのか？というゲームを子どもにさせていましたが、すごく考えていました。これを建てるとお金がなくなるのでだめだなと考えたりしていて、まちづくりを自分なりに考えるようなことをさせてみた時に、面白いなと思いました。「お母さんだったらこう思うけど、君はこう思うんだね」というようなところがありました。
- ・子どもは、タブレットはもうサクサク使えますし、Zoom も使えて会えなくても話せますので、何かそういうことを取り入れたらすごく良いなと思いました。

会長

- ・北里学区に限らず、オープンガバナンス全体の取組の1つとして、子どもをどう巻き込んでいくかを考えることは、面白いことだと思います。

委員 B

- ・コミュニティエリアについては、なかなか土地もないと思いますが、基本的には、小学校とコミュニティセンターを一緒にしようという構想の中で、その土地がだめと言うならば話が進みません。まずは原案が必要で、最低限、このエリアは日野川を改修しているため、昔みたいな洪水になることはありません。ただし、大雨が降った時には川以外の田んぼなどは水がつくことになり、その時に川に流すことができない場所であったならどうするのかなど、そうしたプロセスを経て最終意見が決定し、土地が取得できるかどうかは別として、進んでいくのだと思います。
- ・まずはこういう基本構想というものを、誰かは分かりませんが、こういう条件であればここが一番良いと示し、そこから煮詰めていかなければ、話は進みません。その中で色々な意見があり、最終的に、小学校やコミュニティセンターについては分散しないといけないということもあります。そうして考えていくべきであり、まずは色々なことを踏まえた土台がなければ、話は進みません。
- ・大学の先生などにも入っていただきながら、こういう形であれば良いのではないかなど、まずはできれば良いのではと思います。

まちづくり協働課

- ・まず、子どもの件については、ゲームという発想は全くありませんでしたが、ゲームを目的ではなく1つのツールとして取り入れることは、非常に面白いなと思いました。面白かったと、まずは言ってもらえることが一番だなとも思いました。それから、LINE については、先程も話にありましたが、テーマを限定できますし、課題を明確にできますので、ぜひコミュニティエリアの検討のところで使っていきたいと思っています。参加者の地域については、特に制限をしなくて良いと思っています。
- ・そして、原案を示すということは、話をどのように持っていくかもありますので、これは改めて検討させていただきたいと思っています。当然、地元のこともありますし、今回と言いますか常にそうなのですが、やはり協働しながら同じペースで進んでいくことが大事だと思います。地元からボールが来て、市で考えて、そのボールを返すことを続けて結論が出ると良いですが、今回の場合、多分それでは難しいと思いますので、色々な部分で入っていきたいとは思っています。
- ・今日のところはここまでの言及とし、時間をいただければと思います。

会長

- ・案についてはタイミングだと思います。煮詰まってきてどの段階で出すのか、皆で議論した上で合意の段階で出すのか。
- ・他の事例で言いますと、場所は決まっていたケースがありますが、今回は場所の選定からということで、それこそオープンデータを活用した立地条件の検討のほか、この場所での期待や目的、色々な現実を見た上で、さらにステップアップというところ、意見が必要な段階で協議会に案を出していく流れではないかと思います。
- ・来年度の基本的な方向性として、今、事務局から提示されましたが、本日の意見も踏まえた上で検討いただき、協議会として賛同するということがよろしいでしょうか。

(一同賛同)

(3) その他

委員 G

- ・オープンガバナンスの問題とは少しかけ離れるとは思いますが、お話しします。幼稚園、小学校、中学校、高校では、この寒い中、それぞれ卒業式や終業式が行われています。それ以外にも、子どもたちは体育館しか集まるところがありません。寒い中、およそ1時間から1時間半ほど、体育館の床に座ったり立っていたりしています。大人でもぶるぶると震えるくらいで、これを何年続けるのかなと思っています。
- ・また、能登半島地震でも、体育館など公共の大きい施設が避難所になりましたが、近江八幡市でも同様に、小学校、中学校、高校の体育館が避難所になっています。あとは、コミュニティセンターの大会議室などが避難所になっていますが、能登の例でも分かるように、暖房もないところで2か月から3か月を過ごさないといけません。
- ・コミュニティセンターを新しくすることも大事ですが、そういう施設について、先に暖房や冷房設備を設置しないと、本当に大変なことになると思っています。私ももうすぐ80歳になりますので、伊勢湾台風を経験していますが、あの頃に比べ気温が高く、この頃は寒暖差が激しいので、できるだけ早く、こうした避難所なり、児童が集まるような大きい施設については、空調設備を整えていただきたいと思います。
- ・この場で話して良いことか分かりませんが、この場に企画課やまちづくり協働課がいますので、ちょうど良いのではと思いお話ししました。

会長

- ・貴重なご意見として、ぜひ検討いただければと思います。

3. 閉 会

事 務 局

- ・今後の協議会スケジュールですが、令和6年度の開催予定につきましては、現在未定となっております。開催が近づきましたら、改めてご案内させていただきます。
- ・以上をもちまして、本日の協議会は閉会とさせていただきます。年度末の大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。

以上